

浄土

monthly JŌDO

令和3年

Vol.87

No.950

2021
January

〔鶴飼秀徳の寺々刻々〕

コロナ禍での寺院の役割とは

戸松義晴（全日本仏教会理事長）



〈新連載〉
江戸日本の街道探訪
森清鑑
〔寺院紀行〕
京都・教伝寺
真山剛

古物漂流

文と写真●三宅政吉
(グラフィックデザイナー)

連載1 縄文土器残欠

写真の苔玉を乗せた縄文土器の残欠は、埼玉県川越市の成田山川越別院本行院（通称川越不動）での骨董市で買ったものである。この骨董市は毎月二八日に本堂前の広場で開催される。いつもは一〇〇店ほどが集まる賑やかな市だというが、昨年の十月に行った時には新型コロナウイルスの影響だろう、五〇数店ほどの集まりだった。

骨董市に行くときどうしても朝鮮半島の焼き物や調度品、絵画に目がいつてしまう。私などが買える値段ではないのはわかっているが、直接手にとって眺めることができるのは得難い体験である。この日も李朝白磁の小さな壺を見つけ、手にとると店の親父さんが寄ってきて、いいものでしょう、四万七千円だけとお安くしますよ、三万円と耳元でささやく。そんな大金持っているはずもない。骨董市にはよく縄文土器の欠片が段ボールの箱に入られて、ひとつ二〇〇円から三〇〇円ほどで売られている。その中から面白い文様のものを探して買うのも楽しみのひとつである。この日買った土器の残欠が、そういうものとするこし違うのは、底の部分だからだろう。縄文土器の底は、平底、丸底、尖った尖底土器などの種類がある。また底周辺にはあまり文様がないものもある。とくに煮炊き用の甕や壺には、底の周辺には装飾はほと

こされていないことが多いようだ。この土器もそうである。火にあたった部分が黒ずんでいる。

手にすると意外と安定している。これなら苔玉を乗せてみるのも面白いかもしれない。帰り支度をしていた親父さんがこちらを見て、それ千円だけど、もう終わりだから七〇〇円にしようよと声をかけてくれる。

川越まで遠出して買い求めたものが、七〇〇円の縄文土器の残欠だけというのも情けない話だが、私の骨董市めぐりは大方そんなものである。翌日隣駅の中野まで歩いて、ホームセンターの園芸売り場で買ったのが写真の苔玉である。



土器の高さ110ミリ、口径最大部分150ミリ、底45ミリ。苔玉に植えたのはブチリス（イノモトソフ）の仲間

京都・園部

教伝寺

寺に歴史あり
人々に信仰あり
日本の
心の故郷を紀行する

寺院紀行



大乗崇源院教伝寺伽藍
第38世小泉顕雄前住職と第39世小泉範幸住職



教伝寺本堂内陣



燐谷(ひうちだに)は教伝寺のある旧地名で、火打ち石が採掘されていた



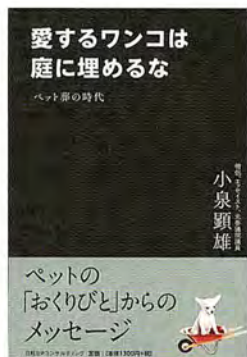
平成22年に落慶した教伝寺本堂の正面。すぐ目の前の崖下に国道9号線が走っている



客殿に祀られる内仏。この阿弥陀如来立像が本堂を建て替える前の本尊だった



小泉顕雄前住職が出版した著書。タイトルは教伝寺の「教」と「伝」を使っている。先々代から続く教伝寺の寺報、『菩提樹』





関西で最も古い動物霊園のひとつである教伝寺の関西動物霊園。これまでに50万件のペット葬を行なっている。写真上が霊園、下が納骨堂、右が道路脇に立つ看板、右下が火葬施設



小さな命も大切にという思いを込めた「いつくしみの碑」

浄土

2021/1月号 目次

カラーグラビア=寺院紀行 京都・園部 教伝寺	1
【特別対談】 寺々刻々⑦ コロナ禍での寺院の役割とは	
.....全日本仏教会理事長 戸松義晴 鶴飼秀徳	6
『浄土』掲示板〈俳句〉.....	行正明弘 15
【新連載】漫画「浄土宗のお祖師様」二祖聖光上人①...ぐんじまん	17
寺院紀行 京都・園部 教伝寺	真山 剛 20
微風吹動 インドの旅にて	名和清隆 26
ぶつぶつ放談 お寺に必要な IT(第4回) ... 井上広法 小路竜嗣	30
連載インド紀行⑧釈尊最初の教化説法の地サルナート... 佐藤良純	37
みんなの境内〈乗蓮寺 無能寺〉.....	41
【新連載】江戸 日本の街道探訪 第一回	森 清鑑 42
『浄土』掲示板〈道詠〉.....	八木千暁 49
追悼 石上善應師を偲んで	佐藤良純 今岡達雄 51
編集後記	56

表2 古物漂流

三宅政吉



表紙題字=中村康隆元浄土門主

表紙写真=若林隆壽

アートディレクション=近藤十四郎

『寺院消滅』教養としての仏教』著者

鵜飼秀徳の寺々刻々

特別対談

コロナ禍での寺院の役割とは

戸松義晴

(全日本仏教会理事
東京・心光院住職)

対談

鵜飼秀徳

(ジャーナリスト
京都・正覚寺副住職)

戸松師が住職を務める心光院境内で

「いま、社会が寺にのぞむ」と

本誌編集長(以下、本誌) 全日本仏教会(以下、全仏)は昨年8月、大和証券と共同でコロナ禍における実態把握調査(対象は一般の方々)を実施されましたが、仏教界を取り巻く環境の変化はどのようなものがありましたか。

全日本仏教会理事・戸松義晴師(以下、戸松)

もっとも印象的だったのは「コロナ禍において寺院・僧侶はどのような役割を担うべきか」(図1参照)の結果です。高い割合を示した項目は、「不安な人たちに寄り添う」や「コロナ禍収束を祈る」。社会不安の中で「宗教にすがりたい」という思いが、自然と湧き出てきた結果なのですね。この結果は菩提寺があるなしに関わらず同水準だったことも特徴的でした。

平時での調査で常に上位にくる項目は「葬式や法要などをしっかりと執り行うこと」といった「供養」に対するニーズ。逆に下位は「教義」や「信

図1 今後、寺院・僧侶に求める役割

	不安な人に寄り添う	コロナ収束を祈る	しっかり葬式を行う	悩みなど相談を傾聴する	困窮者を支援する	お寺を開放する	特に役割は無い
菩提寺有り	33	23.7	20.6	17.8	17.6	12.8	31.2
菩提寺無し	30.7	19.4	14.4	17.2	16.4	7.6	41.1

図2 コロナ収束後、1年以内に参加したいイベント

	お墓参り	菩提寺への参拝	初詣に行く	年忌法要を行う	観光寺院へ参拝する
菩提寺有り	60.3	39.7	37.7	23.2	20.7
菩提寺無し	38.4	7.1	39.9	10.5	13.4

図1、2 『全日本仏教協会 仏教に関する実態把握調査(2020年度 臨時調査)報告書』より抜粋

仰」に関することです。つまり、世間の人々は「お寺は弔いさえしっかりやってくればよい。説教くさい教義の押しつけはいらない」と割り切っている。仏教は生活習慣の一部であって、「宗教」とは捉えていないのかもしれないね。

今回の調査でも相変わらず、「コロナ禍ではお墓参りには行けないけれど、収束後はお墓参りには行きたい」という割合は高かった(図2参照)。人々の亡くなった人への想いの強さは変わっていないことが伺えます。しかし、コロナで「心の拠りどころとしてのお寺」が、強く意識された結果が出ているのは、興味深く、そこに私たち僧侶が十分に応えられているか。それが問題です。

鶴飼秀徳(以下、鶴飼)私の寺でも、それをひしひしと感じることができました。コロナ禍に入って春秋のお彼岸、お盆がありました。春のお彼岸は確かに、お墓参りを控える動きが見られましたが、お盆や秋のお彼岸はここ10年で最多の参拝者数で



戸松義晴師

とまつ・ぎせい

1953年東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒業、大正大学大学院、ハーバード大学大学院神学校修士課程修了。浄土宗総合研究所主任研究員。国際福祉大学特任教授。全日本仏教会事務総長(2020年6月より)、世界仏教徒連盟(WFB)執行役員。東京教区心光院住職。

した。私は檀家さんの供養に対する意識の高さに驚くと同時に、「お寺は癒しの場なのだな」と改めて感じました。

戸松 確かに東京都心にあるうちの寺でも、墓参の数はさほど減りませんでしたね。しかし、法事は激減しました。都心部における葬式の割合はもと「家族葬」が多かったのですが、コロナをきっかけにして、「一日葬」がぐっと増えた感があります。

鵜飼 3月中旬に愛媛・松山市の葬儀会場でクラスタが発生し、29日にタレントの志村けんさんがコロナで亡くなった。そして志村さんのお兄さんがテレビカメラの前で「きちんとした見送り方ができなかった」、「骨も拾えなかった」と訴えました。この志村さんの死をきっかけに、葬送の現場の萎縮が起き始めたように思います。病院で看取りができず、コロナで亡くなった方のご遺体は納体袋に入れて念入りに消毒をして……。ただ、葬式については一日葬に省略しても、やらないわけにはいかない。経済的ダメージはお寺以上に、葬儀社や関連業者が大きいでしょうね。

「コロナ禍での寺のスタンスの違い」

本誌 そんなコロナ禍にあつて、鵜飼さんは全国47都道府県すべてを回ってお寺の取材をされたとか。

鵜飼 はい、お叱りを受けそうですが3月から9月までに全ての都道府県を回って、200か寺近



鶴飼秀徳師

うかい・しゅうとく

1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞・雑誌記者を経て2018年にジャーナリストとして独立。「仏教界と社会との接点づくり」をテーマに活動続ける。著書多数。東京農業大学・佛教大学非常勤講師、一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事。京都教区正覚寺副住職。

くのお寺を取材しました。すると、コロナ禍におけるお寺のスタンスがよく見えてきました。

北陸のある有名寺院の門をくぐった際には、あきれ返るようなことがありました。さほど世間が騒いでいない時期にアポイントメントをとって、4月初頭に取材に行ったのですが、住職から「まさか来るとは思わなかった。この時期に取材なんて何を考えているのだ。京都ではいま何人の感染者が出ているのだ。俺に近づくな」と。私は、「大

変な時にすみません。キャンセルのお電話がなかったものですから。これ、お供えください」と手土産を渡しました。

すると、「土産にウイルスが付いていないだろうな」と。私も口が悪いので「お供えですから、仏様には感染しまへんやろ」と京都風にイヤミを返しました。平時でもそうですが、態度に難ありのお寺は一定数あります。もちろん、コロナ禍であつても泰然自若、宗教者然とした立派な態度で迎えていたのだとお寺のほうが多いです。コロナでお寺の社会への向き合い方が、浮き彫りになっている印象です。

戸松 コロナ禍においては、本当は仏教界のイメージ改善のチャンスなのですよ。「困った時の神頼み」ではないけれど社会不安の時こそ、死への寄り添いや疫病退散などの祈禱をお坊さんがやらないうで誰がやるのだという気構えが必要です。

本誌 死後の世界を説く浄土系、祈願祈禱の真言

系など、仏教諸宗派にとつては普段の役割の延長線上であるべき、ということですね。

鵜飼 曹洞宗が6月の宗報に掲載したコロナ影響調査があります。「コロナ禍における葬儀」の項目で、「縮小して実施した」が78%でした。施主さんの要望での仏事の縮小は致し方ないと思います。しかし、「葬儀をしなかった」と回答したのが1%ありました。僧侶のほうから葬儀を拒否しているとするは大問題です。曹洞宗は全国で1万5000か寺近い寺院数が存在しますから、1%といえども150か寺ほど、葬儀拒否の寺院が存在したことになるのですから。

事実、コロナ禍で葬儀拒否の寺があることは私の耳にも届いています。コロナが収束するまで法務を中断し、葬式をも断っている寺です。これは法務の放棄です。遺族としては、たまったものではないでしょう。肉親を亡くし、弔って寄り添ってほしい僧侶の側から拒絶されるのですから。

戸松 法然上人の説かれる「人間の弱さ」や、自己防衛本能が働いた結果なのではないかね。感染対策は必要です。しかし、人間なのだから万全はない。僧侶としてのお勤めをちゃんとやっとうえで、仮に感染したとしてもそれは致し方ないこと。

お寺は「感染対策をしっかりとやっているの、安心してお寺を頼ってください」というメッセージを出していかないと、本当に仏教界はダメになると思います。

鵜飼 厳しい言い方をすれば、宗教者が差別する側になっているのです。差別の構図はハンセン病問題とさほど変わりません。ハンセン病が広まった時は、各県ごとにハンセン病患者を出さないような監視体制、本人や家族への差別、強制隔離などを行いました。コロナで感染を恐れるあまり、宗教者が葬式をしない、というのは明らかに差別です。

【宗派による対応の違いはあるのか】

本誌 戸松さんも全仏の事務総長時代、全国のお寺を回られましたね。印象的だったことはありますか。

戸松 コロナの前は、全国の加盟仏教団体を回っていました。特に災害発生時は全仏が果たさなければならぬ役割があります。募金をお届けすることがそのひとつです。そこで、いかにスピーディに義援金を送れるかが問題になります。

我々は世界仏教徒連盟の仕組みを参考に体制を整えました。世界仏教徒連盟は2004年のスマトラ沖地震での教訓をもとに、災害が起きてから募金を集めるのではなく、常に援助資金をプールしておく仕組みを整えていました。ですから彼らは2011年の東日本大震災や、2018年の山陽・四国地方の豪雨災害では災害発生わずか数日後にはどこよりも早く義援金を現地に届けることができました。

この世界仏教徒連盟の体制を見習い、全仏でも同様の仕組みを整えたため、熊本にはかなりスピーディに義援金を送ることができました。同時に熊本県仏教会が誕生したことも印象深い思い出です。災害では縦（宗派）のラインでの支援と同時に、現地における横（地域仏教会）のつながりがとても重要になります。熊本では浄土真宗本願寺派が最大勢力ですが、浄土宗ほか5宗派が集まって仏教会ができました。

本誌 コロナでも地域仏教界が果たす役割は大きいですがからね。宗派で動きに違いは？

戸松 相当あります。地域仏教界のように、やはりスケールの小さい宗派のほうで情報の集約も早いし、俊敏に動けます。大教団になればなるほど官僚的になる傾向があります。コロナの実態調査などいろいろな意見や不満が噴出することを恐れて、調査に踏み切れない教団もありました。

鵜飼 コロナ禍での葬儀ガイドラインの作成は、

浄土宗と曹洞宗は早かった印象があります。

戸松 浄土宗のガイドラインでは「感染者の葬送については、お骨になった後でも枕経・通夜・葬儀をつとめ極楽浄土へお見送りしましょう」などとハッキリと打ち出せてよかったと思います。

【新メディアが変えた社会システム】

本誌 過去の感染症と、コロナの違いはなんでしょう。

鵜飼 私はスマートフォンが登場、とりわけSNSの存在が大きいのと思います。100年前のスペイン風邪の時や2003年のSARS（重症急性呼吸器症候群）の時にはSNSは存在しなかった。今回はデマを含めた様々な噂の伝播、それに踊らされる人々が全国各地で発生しました。真偽も定かではないニュースに対して脊髄反射的に批判や同調が書き込まれ、社会不安が瞬時にして広がる時代になり、そこに宗教界も飲まれている。

戸松 そもそも法事の自粛や年中行事の中止な

ど、政府から要請などされていませんからね。それこそ、国が「感染症が蔓延するから儀式をやめろ」などと、宗教行為に口を出したら政教分離に抵触します。

鵜飼 だから、各寺院の住職が哲学をもって対応すればいい話なのですよ。住職が思考停止になっているのが問題です。しかも影響力の大きい大本山クラスの寺で拝観停止措置が取られたのはまずかったと思います。

戸松 山門はどこも閉めましたよ。京都ではかなりの寺院が門を閉ざした。

鵜飼 はい、私は地元ですから、現地調査をしました。多くの拝観寺院が山門を閉じました。しかし、清水寺や仁和寺、天龍寺などは境内を無料開放し続けました。一方で、神社はほとんど閉めています。

戸松 増上寺は山門だけは開けておきました。大殿の中は入れないけれど、正面では手を合わせら



新型コロナウイルス「緊急事態宣言」時の京都・嵯峨の二尊院（右）と大覚寺（上）。止むを得ない対応ながら、参拝ができなくなった

れるように。

鶴飼 本来、当たり前のことですよね。境内地に参拝者を入れないというのは、その寺が宗教施設ではなく、観光スポットに過ぎなかったということとを自ら宣言したようなものです。

戸松 公益法人としてまずい、のではないでしょうか。

【寺院への持続化給金除外のわけ】

本誌 政府の持続化給付金が宗教法人は除外となりました。何があつたのですか。

戸松 言えることと言えないことがあります（笑）。言えることがあるとすれば、国会議員や官僚は「お寺や神社はなくなつてはいけない」と本気で思っているということ。地域社会が疲弊し寺院がどんどん困窮していく中で、無住になつてしまえばいったい誰がお墓を護っていくのか。誰が葬送や祭祀儀礼をやるのか。その問題の大きさを彼らはよくわかっています。私も最初は永田町にお願い

に行きました。あとは議員の人が自発的に頑張ってくれました。特に若い議員はこれを機に勉強し、重鎮に働きかけもしてくれました。官僚も然りです。宗教法人への持続化給付金の適用は、詰められる寸前にあつたことは確かです。

しかし、一方で宗教法人に援助することは、憲法89条（※公金その他の公の財産は、宗教上の組織若しくは団体の使用、便益若しくは維持のため、又は公の支配に属しない慈善、教育若しくは博愛の事業に対し、これを支出し、又はその利用に供してはならない）に抵触します。最終的には憲法89条の中の「宗教上の組織の維持のためには支出してはならない」という部分の壁が厚かったということ。同じ公益法人でも学校など宗教法人以外の公益法人には給付が認められましたが、そのあたりは確かに釈然としません。

鶴飼 宗教法人に対する持続化給付金は、特に地方都市の困窮寺院のためのものですからね。むしろ、

ろ、憲法20条の信教の自由を担保するための持続化給付金だと思っています。地方から寺院がどんどん消えれば、人々の宗教の選択肢がなくなっていくのですから。

【聖職者としての僧侶の問題点】

戸松 世間の宗教団体に対する信頼度が低いということなのです。国学院大学の石井研士教授が調査した「制度・組織の信頼度」（図3）では、「病院」が89%、「新聞」が88%、「学校」「裁判所」がともに74%などと高位、「大企業」が58%、「中央官庁」が41%と中位を占めています。「宗教団体」は15%。かなり信頼度が低い。調査当時はオウム事件の余波にあつたとはいえ、「国会議員」の35%の半分以下の信頼度です。

本誌 それは何を意味しますか？

戸松 医師は科学的見地に基づいて診断し、治療すれば治癒します。今は必要に応じてセカンドオピニオンで他の医師にお願いすればよい治療を受

俳句

念仏をもて問訊の御慶かな

行正明弘

福岡・糸島・正覚寺

図3 制度・組織の信頼度 (JGSS・2006年) (%)

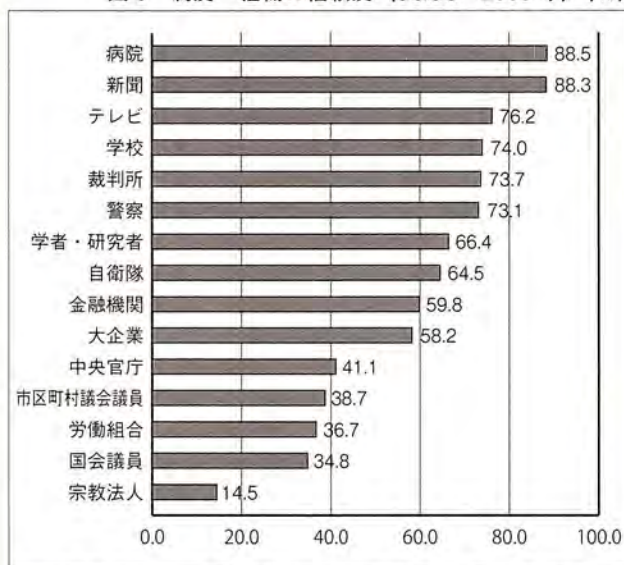


図3 「東洋学術研究」第49巻第2号「日本人はどれくらい宗教団体を信頼しているのか」(石井研士)より抜粋

けられる。確かな治療を受けた結果、病気が治るといふ信頼度があります。「お医者様に任せれば、病気が治る」という、代替不可能な絶対的信頼性です。

しかし、宗教者が「あの世がある」と言っても、そもそもエビデンス（証拠）がないわけです。つまり、宗教者の発言の信頼性だけで成立している世界なのです。「お坊さんが言った通り、あの世があったよ」とはならないですから。「信じる者だけが救われる」世界です。その信じる者が少なくなっているのです。

唯一、我々にとって救いだったのは、宗教全体の中で「信頼できる」とするのが、仏教が68%、

神道54%、キリスト教40%、新宗教5%と最も高かったことです(図4)。しかし、仏教は宗教団体と思われていないフシがある。なぜなら、前の話に戻りますが全仏の調査で多くの人が、「教義や信仰はいらない」と回答していますからね。

鶴飼 仏教者は医師や学校の先生、裁判官らと並んで「聖職者」のカテゴリのはず。どうしてそんなに社会的評価が低いのでしょうか。

戸松 僧侶が勉強していないからでしょうね。若い僧侶はお寺の中で、甘やかされて育っていますから。医者や家庭でも、医学部や国家試験のハードルを超えなければ医者にはなれない。裁判官も司法試験をクリアするには猛烈な勉強が必要です。では、各宗の教師になるには？ 一般教養の試験なんて一切、必要ないでしょ。

鶴飼 必要最小限の教養もないのに、難解な仏教学や宗学が身につくはずがない。昔、僧侶はエリート集団だったはずなのに。

図4 宗教団体の信頼度 (2009)

	信用できる	信用できない	わからない
仏教	51.8	18.5	29.7
神道	43.3	26.6	30.1
キリスト教	35.5	35.5	29
新しい宗教	3.8	69.9	26.3

図4 出典は図3と同じ

本誌 最後は僧侶にとっては耳が痛い辛口の話となりましたね。

このコロナ禍で突きつけられた現実を実感しているのは他ならぬ僧侶だと思えますが、個々の寺院や僧侶がこの災いを乗り越えられるかですね。本日はありがとうございました。

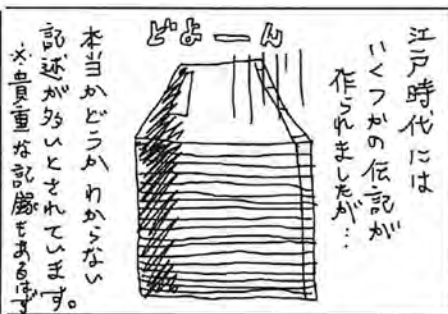
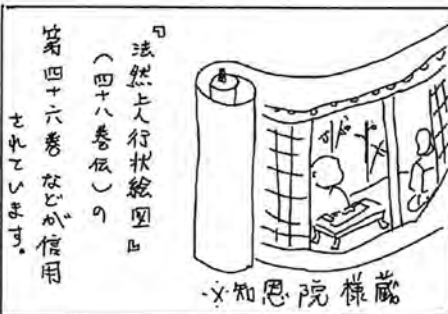
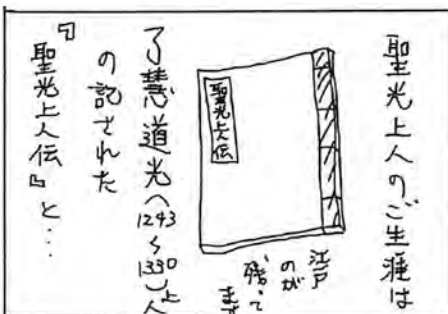
浄土宗のお祖師様 その1

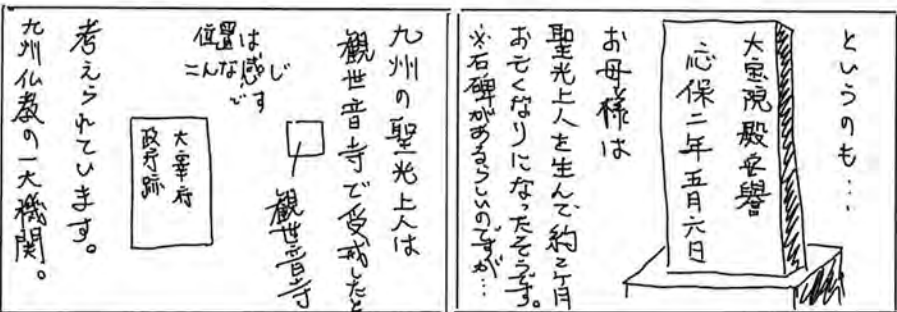
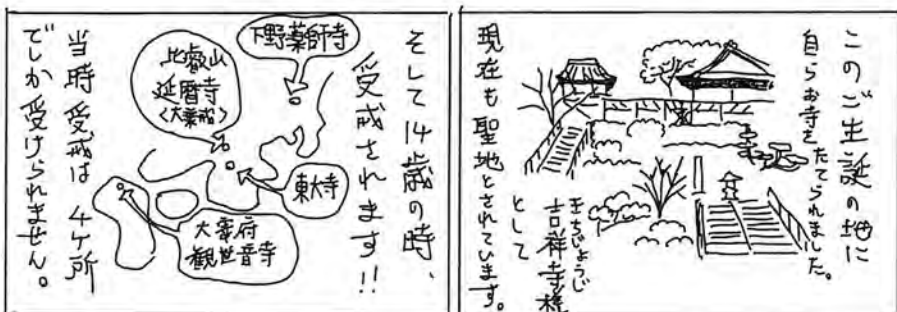
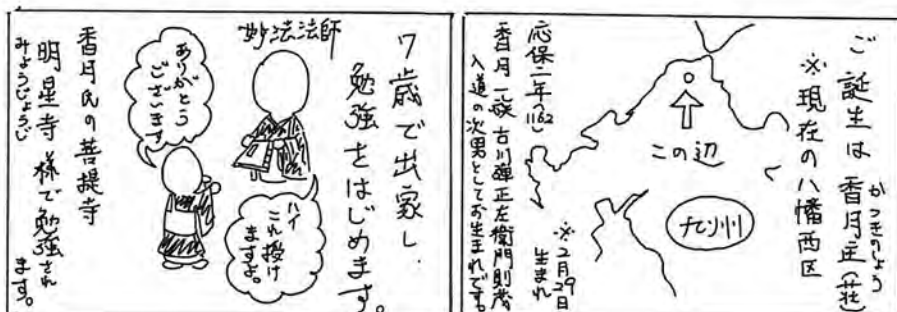
二祖 聖光上人

第壹話

作：ぐんじまん

現在の浄土宗は
法然（上人）
「聖光（上人）
「良忠（上人）
聖光上人（1162～1238）
の流れなので
あります。





くんじまん 1978年千葉生まれ。浄土宗のお坊さん。

九州に
帰ります!!

8年間学んだ
聖光上人は

※たぶん
船で...

受戒の後、三年間

英彦山まで約40km(?)
日参したとされています。

九州に帰った聖光上人は

油山に入られたという。

福岡市 大層山 油山

そして22歳の時、
だれもが学んだ

北叡山に登られ
ました。

しかも学頭という役職に

は、天竺
バトミコ
しきょう
かえりだ
つかやたのである!!
※油山には僧がたさんいた
らしいです。

聖光上人は東塔東谷
空地房証真
様に
師事
する。

あ、お師匠
覚えて下さい
※この方は勉強しすぎて
源平の戦い知らなかったとか...

次回!! 事件が
起きる (AT) 3

マッコー!!
活躍
またたかな
聖光上人ですか!

証真様は
本当にすごい方で

天口大師は
すごい方
三大部尊です
よかた...
本当にたぐさんの著作が
現代まで残されています!!

寺院紀行

京都・園部

教伝寺

まやま こう

1958年東京生まれ。大学卒業後出版社に勤務、男性月刊紙の編集部で籍をおく。その後フリーとなり主に寺院関係の編集や執筆に携わっている。

文・撮影

真山剛



共同墓地から教伝寺本堂をのぞむ。山合いに建つ寺だ

「私がお嫁に来たときは、山の中のお寺で昼も暗くて……。本堂も女学校の寄宿舎を移築した建物でしたから」

京都駅から快速で30分余、ＪＲ嵯峨野線の終点となる園部駅から歩いて10分、旧園部町の入り口にある教伝寺。その先々代となる小泉麟雄住職のご内室満里子夫人は、昭和24年当時の教伝寺を思い出し、こう続けてくれた。「昭和43年にお寺の前に国道9号線が通って景色が変わりました。そして斜面にある教伝寺の墓地が開け、運が向いたのですかね」

車の通りが絶えない国道脇に「宗教法人教伝寺関西動物霊園」の大きな看板が立っている。左に入ると目の前が一気に開け、駐車場の奥の山腹にとても広い墓地が広がっている。

そのお墓の多さにいったいお檀家さんが何軒ある寺かと思ったが、教伝寺墓地は旧町内の方々の墓地でもあり、仏教徒だけでなく色

色な宗教・宗派の墓地になっている。

その墓地を見上げると、ずっと奥には十字架も見え、色々な方が眠っているということがわかる。そして、入り口にはペット専用の納骨堂があり、その横にペット墓がきれいに並んでいる。実はこの関西動物霊園、昭和53年に創業され、今までになんと50万件以上のペットを供養してきた。関西一、いや日本一ともいえる動物霊園だ。

この霊園、一見お寺の施設に見えるが、教伝寺は境内地を貸しているだけで経営母体ではないという。しかし、この霊園のおかげで教伝寺は京都はもちろん関西一円にその名を知られる有名寺院になった。

今でこそペット霊園は珍しくないが、この関西動物霊園はまさに草分けの霊園で、企画した社長に先々代住職が「やってみたらえがな」と協力したものの、当初は関古鳥が鳴



昭和43年に国道9号線が開通、山中の寺院が国道沿の便利なお寺に変わった

いていたという。しかし、兵庫県三木出身の先々代住職は、教伝寺を少しでも社会と繋げようと、小学校の校長を兼職しながら花を植えたり、地元の活動に積極的に協力してきた甲斐があつて今の教伝寺は「ペットの寺」であり、「丹波の紫陽花寺」と名を馳せている。

その先々代、父であり師僧から平成元年に法灯を継いだのが、昨年6月まで住職を勤めていた38世小泉顕雄前住職である。

小泉顕雄、といえば浄土宗で一番有名ともいえる僧侶だった時期がある。平成13（2001）年、小泉純一郎内閣発足直後の参議院選挙で新人ながら見事当選、全国約7000ある浄土宗寺院をほぼ隈無く挨拶、参拝したおそらく唯一の浄土宗僧侶である。

その小泉前住職、母いわく「好きなことして、お坊さんらしくない」僧侶で、敢えて巻頭カラー頁に並べた著書に書かれた「僧侶で

教育者で生物学者で参議院議員」と、まさに履いてきた草鞋の数を聞きたくなる僧侶だ。が、その紹介の前に教伝寺の歴史を紐解こう。

正式名称は大乗山崇源院教傳寺。但馬国出石城主小出吉親が元和5（1619）年に丹波国園部への転封に伴い、城下町の中心、本町に長誉上人を開基開山として建立された。そして明治初年、火打ち石がとれた燧谷（ひうちだに）、現在地の新町に移転している。

園部藩の宗教政策、寺院統制のもと、教伝寺を本寺とする八ヶ寺の浄土宗寺院があつたが、今は教伝寺だけである。教伝寺には園部落城主小出藩主と関係の深い女性の墓が2基あるが、藩主との関わりはそれだけ。一方、園部藩主の菩提寺が曹洞宗ということで園部にある44ヶ寺中、曹洞宗寺院がなんと35ヶ寺、曹洞宗王国で孤立無縁の浄土宗寺院なのだ。

また、園部は山陰道の宿場町であり、京都



園部初代藩主、小出吉親公の木像と現在は園部高校の正門になっている園部城跡の門

から若狭へ向かう若狭街道と丹波篠山へ向かう篠山街道の分岐点でもある。当時の町並みが今も残り、秀吉の朝鮮出兵時に非常食として珍重された唐板というお菓子を作る400年続く古い和菓子屋が今も残っている。

さて、この園部の山中の寺で昭和26年に生まれた小泉顕雄前住職、話を聞くと実に夢多き青年だった。いや、まだ夢を追いついていないので、「夢多き古稀」が正しい。

一番なりたかったのが医者。本人曰く学力不足で諦めたというが、その夢は長男が外科医となり代わりに叶えてくれた。

次になりたかったのが生物学者。これは自然豊かな土地で育ったことから、動植物や自然への好奇心が育まれ、鳥取大学で生物学を学んだのち同大研究室にも勤務、佛教大学で僧侶資格を取った後にも広島大学大学院に進学。その後、京都の高校で理科の教師を務め、

アユモドキという幻の魚が地元の園部川に生息することを突き止め、地元紙、全国紙にも大々的に取り上げられマスコミにもデビュー。京都淡水魚研究グループの一員に名を連ねている。付け加えれば、最近ではメダカを販売する会社を創業、ペット霊園もあり「小さないのちをいづくしむお寺」を標榜する寺の境内でおおよそ三十種類のメダカを育てている。

三番目の夢は自然を守る環境保護と自然や命を大切に作る人作り。これは既に閉園したが、教伝寺学園という私塾を開き、そこで発行する塾報『PRAJNA』（プラジュナ、サンスクリット語で般若の意）にその想いを長年にわたり綴っていた。

そして四番目の夢、憧れが政治の世界。これも地元元園部町議員（二期）、そして国政の参議院議員（二期）に当選。「無念だった」という二期目落選直後には総本山知恩院で法



めだか堂株式会社で育てているめだかはおよそ30種類におよぶ

然上人八百年大遠忌局長という浄土宗僧侶としての重積も務めた。

そして今。フィリピンのマニラ近郊のマロスという町で貧困に苦しむ人々への支援に精力を注いでいる。平成21(2009)年、インターネットで知り合ったフィリピン人の若者の一家を支援、仕事のなかった家族の食堂起業を手伝い、その食堂を起点に近隣の貧困に喘ぐ子供達を支援している。フィリピンへの入管スタンプは100個を超え、現地に住まいも確保、実際に子供達と触れ合う救援活動、そして日本からの物資応援をしている。

また巻頭の著書に戻るが、『南の国で見つけた生き甲斐〜忘己利他慈悲之極〜』と題した本にその経緯が記されている。特筆すべきは20年前から入会している地元ライオンズクラブの会長就任に合わせ、地元園部の高校生6人を同行、世界に残る貧しさの実体験ッ

アーを企画、フィリピンのライオンズクラブの協力も得て実現させたこと。以後毎年続け、昨年もコロナ前に実践している。

実際に極限に近い貧困を目の当たりにした高校生の中には世界平和や国際貢献に関わる仕事に就いた学生もいる。この活動の母体は今NP Oとなった支援団体カワセミクラブで、一昨年に浄土宗平和賞を受賞している。

実はこの救援活動の原点となっているのが、若手僧侶時代、京都教区青年僧侶の会の発足会で聞いた百万遍知恩寺の林靈法法主の一言だったという。

『諸君は何のために生まれてきたのか、あるいは、何をするためにこの世に來たのかと問われた時、どうこたえるか？ その答えが準備できているか？』

念仏に出会うために生まれて來たと答えられないなら即刻僧侶を辞めてしまえ』



支援するフィリピン、マロスの子供達と一緒に

振り返れば、私の人生はこの『念仏』を『仏教』、さらに『仏教者としての社会的実践』と置き換え、社会的責任を果たせる実践する仏教者を模索する人生だったようです」と小泉前住職は述懐する。

教伝寺には『菩提樹』と題された毎月発行される寺報がある。住職時代に兼務していた3ヶ寺も含めた共通の寺報だが、これは先々代から引き継いだもので、現住職にも引き継がれている。寺報は寺と檀家を繋ぐ架け橋だが、その誌面のトップを飾るのはまだ先代住職。カワセミクラブコーナーももちろんあり、檀家からの支援にも繋がっている。

そして寺報の最後を締めくくるのが「こんにちはは範幸です」という現住職のコーナーだ。「祖父も父も文章を書くのが好きですが、その血筋を受け継いでいるようで、毎回楽しく書いています」

昨年6月に法灯を継承したばかりの小泉範幸住職にこんなことを聞いてみた。

社会との関わりに重きを置いた先代、先々代ですが、新住職はどんな住職を目指しますか。「僕はいつも檀信徒さんの近くで寄り添い、伝統的な法式や作法、儀式や行事の継承を大切にしていきたいと思っています。」

もともと僧侶になりたかったのですが、幸い兄が自分の道として医者を選んでくれたことで自然と思い通りに教伝寺の第39世にさせていただけました。ですので、新住職としてお念仏の教えいただきながら、檀家のみならずと一緒に歩いていきたいと思っています」

先代住職の本は寺報、塾報、事務日誌に記した原稿を中心に出版されている。いわばその一字、一文が先代住職の実践する僧侶の原点になっている。新命住職も同様に自分の想いを寺報を通して育てていくのだろう。



客殿には建て替え前の本尊が安置され、先々代住職の位牌が祀られている



微

風

吹

動

インドの旅にて

念仏為先

阿弥陀仏は私たちを慈悲の光で包み込み、この世の最期を迎える際には迎えに来て極楽へと導いてくれる存在である。阿弥陀仏の救いの思いは、「阿弥陀さま、お願いします」と思いを込めたお念仏を称えることにより、自分の心に染み入ってくるのである。

名 和 清 隆

もう二〇年以上も前、私が大学生であった頃のこと。

大学生時代の私はというと、大学生に与えられた特権である「自由」と「暇」をフル活用し、夏休みや春休みといった長期休暇には短くて二週間、長い時には一ヶ月にわたる海外旅行に出かけていた。海外旅行といっても行くのはアジアばかりで（インド、カンボジア、中国、韓国、タイなど）、大きなリュックを背負い安宿に泊まるいわゆる「バックパッカー」というやつである。

浪人生時代、勉強の合間に読んだ『深夜特急』に触発されたのである。本書は沢木耕太郎による紀行文で、主人公は東南アジア、インド、中東、ヨーロッパを巡って、イギリスのロンドンまで、主に乗り合いバスを用いて旅をする。作品中で描かれる現地の市場や食事、ギャングルや現地の人との採め事など。受験生という精神的にも逼迫していた状況であったこともあり、作品を通して広がる未知の世界がもたらす高揚感に酔いしれたのを覚えている。

こんな訳で、大学生になって旅に出かけるようになったのだが、なぜアジアだったのか？　と言うと、最も大きな理由は「旅行費が安い」からであった。そしてもう一つの理由は、街自体やそこに生きている人々から独特の熱気や泥臭さを感じ、そこに惹かれたからである。

訪れた国々それぞれに強い印象を受けたが、なかでも最も強い衝撃を受けたのはインドであった。「ピンクシティー」と呼ばれるジャイプール旧市街、永

なわ せいりゅう 1972年埼玉県桶川市生まれ。埼玉教区浄念寺住職。早稲田大学第一文学部卒業。大正大学大学院博士課程満期終了。浄土宗総合研究所研究員、淑徳大学、大正大学、亜細亜大学非常勤講師。専門は宗教学。

遠に何にも汚されることがないような真つ白な威容を誇るタージマハールなど、圧倒的存在感を示す世界遺産たち。その一方で、華やかな世界遺産と同じ町であるにも関わらず、たちこめる香辛料のにおいとゴミにまみれた街の汚さ、猥雑な雰囲気で行く旅行者の立ち入りを拒むような街の小道。道端で寝ている人々、そして行く先々で寄つて来る物乞いの子供たち。現代の日本ではあり得ないような光景を目にし、私は大きな衝撃を受けた。インドの「カースト制度」という差別を伴う身分制度の強い名残があることを知識としては知っていたが、実際に物乞いをする多くの子ども達と触れ合い、生まれつきの差別から逃れることができない社会のなかで、希望を見出せない生活を送る彼らに対して、どのように自分の無力さを痛感した。

このような、私のなかでの価値観が大きく揺さぶられた旅の終盤、バラナシという町に行った。ここはヒンドゥー教の聖地で、インド中から多くの信者が集まる場所。サドゥーと呼ばれる修行者が死に場所として集まる場所でもある。ここを流れる母なる河ガンジスの水は、人々の罪を洗い流してくれる。

私は数時間、このガンジス川の沐浴所（ガート）で、白い浄衣に身を包んだヒンドゥー教徒が身を清め、神に祈りを捧げる姿を見るときもなく眺めていた。老若男女、裕福そうな人、貧しそうな人、様々な人がそれぞれの苦しみや悲し

み、あるいは喜びを抱えながら神に祈りを捧げている様子がひしひしと伝わってきた。インドという地で様々なことを考えさせられていた私には、ここで真摯に祈りを捧げる人々の姿が、尊く荘厳なものに見えた。

そしてある瞬間（この光景は今でもはつきりと思い出すことができる）、雲の隙間から光が差し込み、ガンジス川の水面と祈りを捧げる人々を美しく照らした。様々な人々を等しく包み込むその光に、その時私はなぜか強烈な感動を覚えるとともに、その優しい光のなかに「人を超えた大いなる存在」を感じた気がしたのである。

もしかしたらこれが、私にとつての最も大きな宗教的体験であったのかもしれない。寺で育ったにも関わらずさほど信心深くなかった私であったが、このインドでの体験によって、私にとつての「阿弥陀仏」という存在をあらためて考えるとともに何となく身近なものとして感じるようになったように思う。

念仏為先

法然上人が説いたお念仏の教えは、仏の名を称える（称名念仏）ことに重きが置かれている。名を呼ぶことは、彼の存在を求め思いを向けることである。思いを向けることによって、阿弥陀仏の慈悲の光が心に染み入ってくるのである。私を包み込む阿弥陀仏の慈悲の光は、ガンジス川で見たような、弱いものも汚いものも全てを優しく包み込む光のようであろうと思う。

浄土宗の青年僧侶に伝えたい

ぶつぶつ 放談

前回に引き続き、実際の現場から見て、今のお寺に必要な「ＩＴ」を、より具体的にお話しいただきます。

お寺に必要な「ＩＴ」を考える 第４回

◆登壇者◆

井上 広法



いのうえ・こうほう

1979年宇都宮市生まれ。栃木県・宇都宮・光琳寺住職。佛教大学で浄土学を専攻したのち、東京学芸大学で臨床心理学を専攻。テレビ番組「ぶつちやけ寺」や人生相談サイト hasunoha の立ち上げに関わり、現代における新しい仏教の入り口作りを目指している。

小路 竜嗣



こうじ・りゅうじ

1986年、兵庫県伊丹市生まれ。長野・松本組善立寺副住職。信州大学大学院工学系研究科卒業後、リコー入社。結婚を機に退職し、妻の実家である善立寺に入寺。寺院のＩＴ導入支援や企業への提案などを行っている。

◆司会◆

服部 祐淳

はっとり・ゆうじゅん

1983年、長野市生まれ。長野・青木島・安養寺副住職。2020年3月まで浄土宗出版に勤務。

司会 では、さっそくですが、お寺の実務に使えるIT製品を教えてくださいますでしょうか。

小路竜嗣師（以下小路） あえて商品名を出しますが、スキヤナーの「Scan Snap」（スキヤン スナップ／富士通）です。

井上 これ、私も使っています！

司会 お二人とも使っているのですか。どんな製品ですか。

小路 前回申し上げましたが、お寺って紙が多いですよ。そこで私は会議終了後に大量の資料をScan Snapに読み込ませることがルーティンになっています。

スキヤナーはたくさんさんの製品が出回っていますが、Scan SnapはA4サイズの画面を1分間に30枚くらい読み取ってくれます。これはお寺のIT化を進める一歩としては非常に便利だと思います。

IT導入する際にいわゆる「住職の障壁」があると思うのですが、これは非常に低いと思います。溜まりに溜まった書類をデータ化し、「あれ、あの資料どこ行っちゃった？」と聞かれた時に、スマホでばつと検索すれば一目瞭然です。

「ほお、便利だな」となり、だんだんとIT化に前向きになってくれます。

司会 住職という高い壁を越えられるかもしれませんね。

小路 データはドロップボックスなどのクラウド上のサーバーに入れておけば、スマホやタブレットなどからいつでもどこでもアクセスできて便利さが格段に上がります。金庫機能もありますので、重要な資料も大切に保管できます。むやみに流出しないよう、また流出しても暗号化で誰も解けないようになっていきます。

機種の中には非接触でスキャンするタイプもありますので、A3の見開きまでスキャン可能です。これは過去帳のバックアップですとか、貴重な古文書などの資料もデータ化し保管できますし、データをPhotoshop（フォトショップ）などで修正して保管しておけば、修繕費もかからず後世に残すことができます。紙の状態で修繕すれば何百万円と掛かることもありますしね。

井上 確かに書類が山になりやすい。

小路 二つ目は監視カメラの「Safe」（セーフ）です。今このカメラがコロナ患者の病室で非常に多く使われていて、心電図のモニターや顔を映るように設置し、看護師はタブレットでそれを監視する使い方をされています。

この商品の優れた点は無線LAN（ラン）さえ引いておけば、コンセント一つで設置で

きるところです。回線工事が不要なことは貴重な堂宇を維持するお寺にとってはメリットだと思います。

無線LANが届かない場所で設置したいときは、ドコモ回線付きのカメラもあるので、電源さえ確保できれば設置できます。

井上 なるほど、便利そうですね。

小路 夜中に境内で物音がしたけど見に行くのが怖い……なんていう時は布団の中でスマホかタブレットで確認ができます。実際確認に行って不審者に出くわしたら、シャレにならないですからね。山の上の小さなお堂で賽銭がよく盗まれるといった無住寺院の防犯対策にも実際使われています。また、動くものに対して察知して通知してくれる機能もありますので、日ごろの来客などにも使うことができます。

映像の保存はクラウドでサーバーも不要。

保管期間は契約次第ですが、私^が使っているプランは一週間保存で月額1200円です。

司会 意外と安いですね。

小路 本体自体は一台2万円前後なので、お試しで使ってみて、徐々に「住職の障壁」をクリアするのもありだと思います。コンセンストを抜き差しすれば簡単に設置場所を移せるので、日によって変えられるのもメリットのひとつです。

このほか、クラウド型会計ソフト「会計free」(フリー)なんかもおすすめです。レシートをスマホで撮影するだけで読み取ってくれますし、クレジット払いなら交通費、雑費などに判別してくれます。ただ、宗教法人向けの収支決算には対応していないので、こちらも企業と掛け合っているところですよ。

司会 技術が飛躍的に進歩する中で、何を目的とし何を導入するかをしっかりと考えないと

いけませんね。

小路 はい、特に地方ではお坊さんも減っているし、お寺の収入だけでは経済的に苦しい寺院が現実的に増えていると思います。一人のお坊さんが二つ三つと仕事を兼務し、あっちの草刈りに行つて、こっちの雪下ろしに行つてとなれば一日が終わってしまい、気づいたら「いつお経読んだ?」「いつ勉強した?」「お檀家さんと話ができた?」という状態になってしまう。在家からお寺に入った私からすると、お坊さんにはもっと活躍してもらいたいです。

司会 なるほど、お坊さんの中にとくと、そういう意識が薄れてしまう。

小路 なんとか頑張っているけど経営がうまくいかないという方を多く目にしたので、その事務の部分だけでも圧縮して法務、お檀家さんと接する時間を増やしてもらいたいとい

うのが、私の「お寺のIT化」の原点です。

井上 よくわかります。

小路 お寺は家族だけで成り立っていますから、子どもが熱を出したり、奥さんが倒れてしまつてはもうそれで回らなくなつてしまう。

家族への負担が大きく、その上収支も良くない状態では次世代に渡しにくいと思います。苦勞するのは私たちの世代で終わりにして、次の世代にはお檀家さんとゆつくり話をできる時間を持たせてあげたい。「仏教を存分に伝えられるお寺」が僕の目指すところです。

司会 とても大事なことですな。

さて、「ウィズコロナ」の時代に入りましたが、ITは大きなカギになるかと思ひますがいかがでしょうか。

井上 悲観論ばかりではなく、むしろ勝機もあるのではないかと思っています。

というのも、このコロナで少し遠かつた未

来のものが身近になったと感じているからです。この取材もZOOM（ズーム）取材ですが、コロナ前だったら、会わないのは失礼にあたる。という感覚だったのではないでしようか。

お坊さんは仏教をインフォメーションするのが命題なので、インフォメーション・テクノロジー（IT）に関しては果敢にチャレンジしていいと思いますね。

小路 少しだけタイムマシンに乗った感じもしますよね。

ZOOMに関しては少し心配なところもあつて、急激に浸透しましたが、「なんでもZOOMでやればOK」という風潮はどうなのかと感じています。モノによつては向かない部分もあるんですよ。基本的に会議システムなので様々な会議には向いているのですが、「一緒に十遍お念仏をお唱えください」つ

てなった時に、遅延があるので合わないのですよね。

今度詠唱の講習会がズームであるのですが、詠唱師の方って年齢は高いし、講員の方も女性が多い。はたしてズームを使いこなせる方がどれだけいるのか、サポートしてくれる方はいるのか。

各自お寺で頑張ってやってくださいといった状況なので、もしコロナが収まった後に定着するかと言ったら「使いにくい」という印象が優先して、またタイムマシンに乗って帰っていく気がするのです。それは少しもつたいない。宗からの助成金があるわけでもないですし、WiFi（ワイファイ）環境も整えられないお寺さんもいる中で、もう少しサポートを強化しないといけないと思います。

司会 御住職にはお年を召した方も多いので、こうした環境を整えるのも難しいとは思いま

す。

小路 そうですね。今までまったくITツールを手にとらなかった人が焦って始めることは少し危うい部分もあります。いきなりのYouTube（ユーチューブ）配信などはあまりお勧めできません。

ノウハウがない中でまったく知らない世界でまったく知らない人に何かを伝えるのはやはり障壁として高い。カメラもマイクも適切なものを用意できなければユーザーは見てくれませんし、編集は誰がするのかとか、コストもべらぼうに高くなっています。何か始めたいなら、地に足を付けてまずは寺報など紙媒体から作って配るでもいいと思うのです。ITは結局インフォメーション（お知らせ）のテクノロジ（技術）ですので、何を伝えたいかを定めてしかるべき方法で発信を始めればいいのです。そこにテクノロジが

どうフィットしていくかですから。

前号で申しましたがIT化は「一発逆転満塁ホームラン」ではないので、檀家さんに認知されるまでは時間がかかります。はじめは紙媒体にQRコードを付けてWebに誘導するといった地道な作業も必要です。

まずは自分の持っている手駒の中から一步を拡張していく。このほうが現実的に広がりや継続性があるのではないかと思います。

井上 まさにその通りで、このコロナショックの中でお寺、または住職、副住職の在り方が明確に問われる時代に入ったのだと思います。どんなにテクノロジーが進化しても伝えるべきメッセージがなければ何の意味もないわけです。

ウィズコロナにおいて思うのはオンラインでできることと、オンラインでできないことのきちんとした住み分けが必要だなと。我々

は対面でのご供養、法話などの体験価値をいかに深めていくかをまず念頭に考えなくてはならないと思います。それがあつて初めて遠くの方に届けられるITが生きてくるので、伝えるべき内容・目的がないのにIT化を始めるのはほぼ意味のないことです。

これまで行ってきた法要・法話などの伝統的なものを根本から変える必要は全くありません。ただそこに流れる価値・意味を伝える手段・表現はよく考える時代に入ったのだと思います。そこにITは大きな役割を果たすと思います。

司会 これからのお寺を支えていく副住職にとっては大変貴重な話を伺えました。ありがとうございました。

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 8

インド・釈尊あれこれ紀行



約50年に著者が撮ったダメーク塔

釈尊最初の 教化説法の地 サールナート

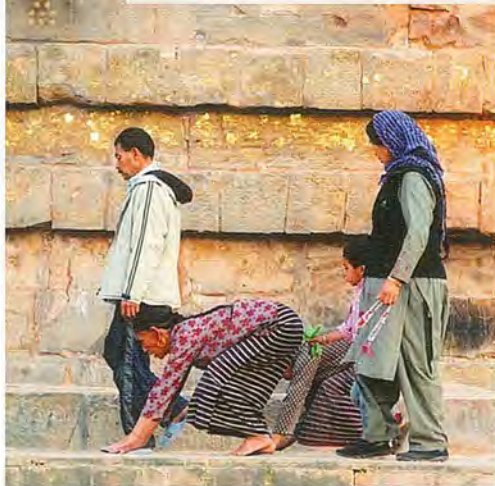
ブツダガヤ、にれんぜんが尼連禪河の河岸で7日7夜、
竜王ムチャリンダに守られて寒さをしのいだ
釈尊は、ヒンドウ教の聖地ヴァナラシの郊
外サールナートを目指した。サールナートも
釈尊が悟りを開いたブツダガヤも、ともにヒ
ンドウ教の聖地でもあり、人々が多く集ま
る所であつた。サールナートで教えを説いた
5人は、以前に修行にともに励んだ5人の修
行者である。この5人、釈尊の父が我が子に
つけた護衛ともいわれている。



サルナートのシンボル、ダメーク塔



塔に向かっ
ての五体投地



ダメーク塔の周りを五体投地するチベットの人々

サルナートはもともとサルランガナート
鹿神の聖地であった。ここが鹿の園（鹿野苑）
と呼ばれているのも、その故からである。

さて、釈尊がこの地で説いたのは四諦、す
なわち四つの真理と八正道、すなわち八つの
理想的生活方法であった。

四諦の第一は苦諦、つまり日々の生活の苦
しみのこと。これには物理的な痛さと、何を
してもうまくいかない精神的な焦りも含まれ
る。

第二は集諦、これら多くの原因で大きくなっ
た苦しみのこと。

第三は滅諦、苦しみを乗り越えるところに
悟り、つまり平和な生活ができること。

第四は道諦、苦しみを乗り越える方法で、
次の八正道が具体的にその方法を示す。

初めに正見、物事を正しく見る、正しい立
場を守ること、次に正思、正しい思想を持つ
こと、それから正語、正しい言葉を使うよう
心掛けること、続いて正業、つまり正しい行



発掘直後のライオン頭柱

為をすること、そして正命、毎日正しい生活を送ること、次に正精進、日々努力すること、そして正念、物事を判断すること、最後に正定、精神統一をすること。そう、八正道とはすべて人間の心に関わり、同時にそれにとりまなう実際の行動のことを指す。

サルナートの広大な遺跡のほぼ中央にあるのがダメーク塔。ダルメーク・イークシャス。ストウーパ、すなわち法の眼の塔である。直線の幾何学模様が見事な塔だ。その周りを五体投地、一回ずつ体を地面につけ身長の長さだけ進む礼拝をするチベット巡礼者が途切れることがない。ちなみにこのダメーク塔は5世紀、グプタ王朝期に建てられたものである。

この遺跡の中で発見されたのが、アショーク王柱の断片で、インド共和国のシンボルマークであるライオンの頭柱が飾られていた。アショーク石柱の下部には、僧団の分裂を禁ずるアショーク王の勅令がはつきり読み取れる。

ダメーク塔の反対側にはさらに壮大な塔の基壇だけが残っている。この基壇の下から釈尊の遺骨を収めた舍利容器が発見された。残念ながらこの塔はかつてベナレスの大地主であつたジャガット・シンが自宅を建てる時の材料として利用してしまい、現存していない。

ダメーク塔の反対側に残る大塔の基壇跡。
ここから仏舎利が見つかった



ダメーク塔と筆者。
塔には金箔が貼られる



佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドテリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職。大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に「ブツダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

また、この塔の周辺で見つかった説法印を結ぶ赤砂岩の仏像は、今は塔に隣接する博物館に飾られている。ちなみに日本の国立博物館でも展示されたことがある。

この地で釈尊は在家者ヤシャ一族を弟子としたが、これが在家者教団の初めと思われる。境内には野生司香雪画伯（釈迦の生涯を書き続けた仏画家）の描いた仏伝図が内壁に描かれているムーラガンダクテイ寺院が建っている。また、ジャイナ教の寺院もダメーク塔の外側に建立されている。

若林 隆壽

(東京 東京大仏乗蓮寺住職)

表紙は雑誌の「顔」である。
写真好きの父の影響で、初めてカメラを手にしたのが半世紀以上前の小学校三年生。学生時代はずっと写真部で過ごし、月刊誌の編集部にも勤務した。デジタルに移行してからも二十年経つから、自分でも何だが、キャリアだけは長い。
今回お話をいただいて、アーカイブを調べたら、デジタルデータだけで何と十六万枚を超える写真。フィルム時代も入れると、到底自分でも把握できない枚数だ。
そんな「下手な鉄砲、数打ちや当たる」駄作の中から、お情けで今月号から『浄土』の「顔」を選んでくださるという。
「顔を洗って出直してこい」と言われても、せっせと枚数だけは増やしていきたいと思う。

何卒しばらくのお付き合いを。

表紙は「顔」

昭和11年に発行された

『浄土・念仏読本』



平成23年に発行された

復刻版『念仏読本』



みんなの
境内

赤坂 明翔

(福島・桑折 無能寺徒弟)

『浄土・念仏読本』との出会い

「人生を変えた一冊」と時々耳にするが、私にとって『浄土』がまさに人生を変えてくれた一冊だった。
数年前、たまたま本棚から手に取った『浄土・念仏読本』を開き、中村辨康先生の「一生」を読んだ。大正大学大学院で近代浄土教を学び、福祉・教育を通して仏教を社会に広めたいと思っていた私は、理想と現実の狭間で揺れ、信仰という肝心な部分までも見失っていた。そんな時、光をあててくれたのがこの一文だった。
『浄土・念仏読本』は昭和11年に刊行された『浄土』として初の特集号である。それだけに真野正順先生や中村辨康先生といった法然上人鑽仰会を立ち上げられた先生方の思いは並々ならぬものがあつたに違いない。平成八年に復刻版も刊行されているが、私のように「人生を変えた一冊」になった人はいるだろうか。

新連載

第二回

森
清鑑

江戸 日本の 街道探訪

家康の
全国道路網
造り

●街道網の創造

一五九〇（天正十八）年、徳川家康、江戸に入府。直ちに大江戸都市造りに着手。一六〇〇（慶長五）年、関ヶ原の戦いに勝利した翌年、家康は全国道路網造りに着手する。国全体の交通道路の基幹として大海道を選定、組織する（秀忠の代に五街道と命名）。次に鎌倉時代から存在している多くの街道を整備し、五街道に接続させ、脇往還（脇街道）と名付ける。これは全国規模の道路網完成を意図したもので、有史以来初の全国的道路網の創造である。

家康のこの道路計画の狙いは、この道路網を通じて、人、物、金（経済）の流通を活発化させること、地域経済の発展を促すこと、加えて道路網に情報伝達機能を備えさせることであつた。

五街道、脇往還の構築、整備、管理は文字通りの天下普請。家康に始まり、二代秀忠が地を固め、三代家光は参勤交代制度を導入。街道の徹底的な

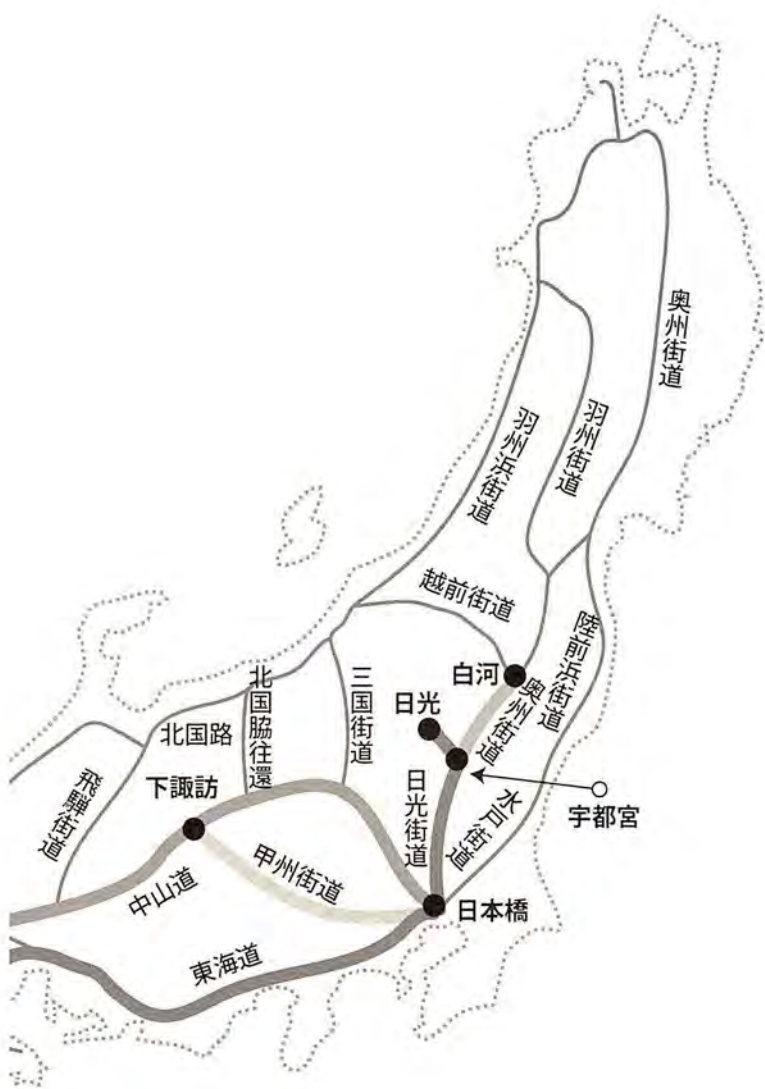
利用と発展につくし、工事は四代家綱まで続いた。一六五九（万治二）年からは道路維持総監督の「道中奉行」が設置され、勘定奉行などと同格の権限が与えられ、道路工事の一切、道路新設・修理、並木敷、一里塚の諸設備管理、橋梁新設・修理、渡船、人足手配、そして宿場駅の運営管理（郵送継手、伝馬手配、現場で働く助郷など人々の監督、関連公事訴訟など）が行われた。すなわち道中関係の全業務を管理することになる。

街道のデザイン

（1）道幅の設定

家康は一六一六（元和二）年に没する。遺訓「家康百箇条」は、全国の道幅と道路の種類を細かく指示している。

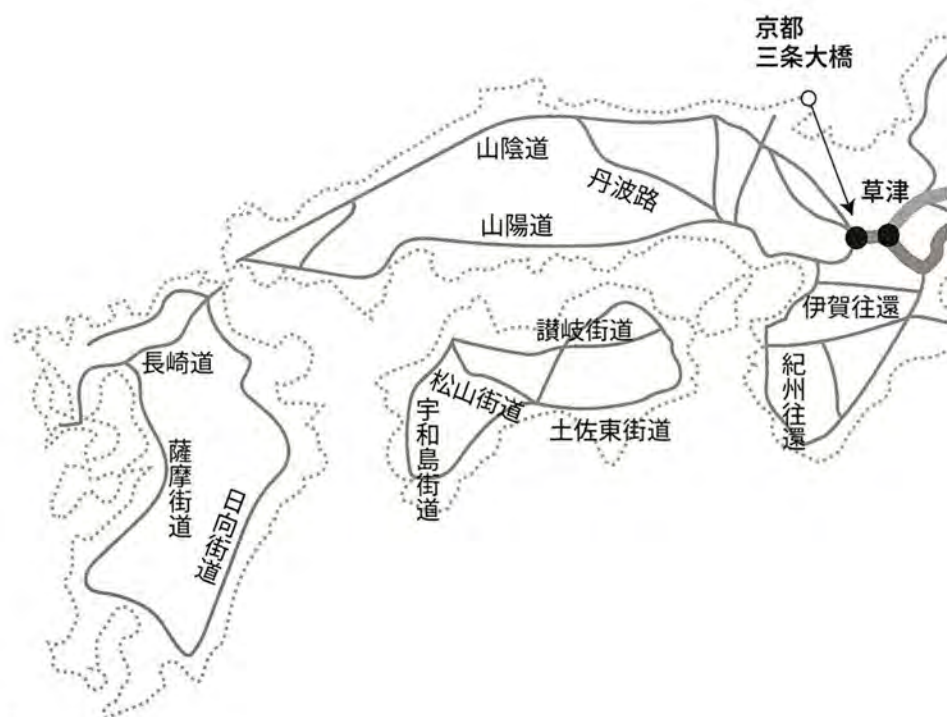
- 一、大海道（五街道、大街道）六間（10.8 m）
- 二、小海道（脇往還、小街道）三間（5.4 m）
- 三、横道 二間（3.6 m）
- 四、馬道 二間（3.6 m）



- | | |
|---------|--------------|
| —— 東海道 | ●日本橋～●京都三条大橋 |
| —— 中山道 | ●日本橋～●草津 |
| —— 日光街道 | ●日本橋～●日光 |
| —— 奥羽街道 | ●宇都宮～●白河 |
| —— 甲州街道 | ●日本橋～●下諏訪 |

街道網の創造

五街道に接続する主な脇街道



五、歩行路 一間(1.8 m)

六、捷路(近道) 三尺(90 cm)

七、作業道三尺(90 cm)とある。

後の五街道標準的横断面によると、道幅は五間9.1 mとなつていが、道幅は場所によつて異なつてくる。例えば東海道の場合、江戸に近づくにつれ、幅六間10.8 mが確保され、箱根の山間部では、幅4〜5 mとなる。また、脇往還でも重要な街道は、大街道並みの道幅が確保されていたようである。

(2) 並木敷の設定

道の両側に並木敷を設ける。これも家康の発想。一六〇四(慶長九)年、家康の命によつて植樹開始。並木敷は旅人を風雪から守り、照りつける陽光を遮り、優しい木陰を作り出す。つまり、当時は街道の周囲が田園である場合が多く、並木敷は明確に街道を認識させる効果もあつた。東海道の並木敷の幅は、九尺(2.7 m)と定められ、街道の両側に敷設され、松や杉が林立。東海道の松並木

や忠臣、松平正綱が二十五年間植え続けた日光杉並木が今日も名残をとどめている。幕末に日本を訪れた外国人は、一様に世界で最も美しい街道と評価している。

(3) 路面整備

道路面工事の基本は、砂利と砂で路面を固めることだった。

一六〇四(慶長九)年、全国的な道路改修法を發布。内容は牛馬往来の妨げとなる小石を取り除くなど細かい指示だった。

一六一二(慶長十二)年、幕府は再度道路整備令を發布。内容は水溜まり、泥濘ぬかるみは砂石で敷固めること。道の脇に雨水が流れるようにすること。良い道に土を置かないこと。馬の蹄を痛めないように路面を整備すること……などである。しかし、現実には雨など降ると、旅人は泥濘にかなり苦労する処も残つたようである。

(4) 一里塚の設定

一里ごとに道の両側に塚を設け、目印のため塚に榎木、松などの木を一本植える。一里塚は文字通り旅人に距離を示す里程標である。

(5) 道標

大街道と脇街道の分岐点には、必ず石柱の道標が設置された。右↓どこそこ、左↓どこそこと刻まれていた。

宿場境や国境に高さ数メートルの傍示杭が立てられた。これは位置や領地の境、例えば相模と伊豆の国境などで、旅人への案内のためだった。

(6) 川の管理、橋の修理、保全

多数の川を渡る必要がある東海道。川は最大の障害であった。大川は架橋が禁止されているため、渡舟が徒歩渡しが必要で渡舟、船頭、人足の手配が必要になる。小さな川には、大小様々の橋（石橋、木橋、土橋）が架けられた。無論、橋の修理管理は幕府御普請役の仕事である。

● 道路網の設定——主要幹線五街道

五街道とは云うまでもなく、東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道で。これらを国の基幹街道と定めた。江戸の政治、経済、文化を各地に波及させる意味もあつて全て江戸の中心、日本橋から始まる。街道距離は日本橋の道路元標を起点として計算する。

五街道の概略は、東海道は太平洋縁を江戸から京都まで達する街道。中山道は同じく江戸―京都間を山道で結ぶ街道。甲州街道は並行して東西に走る東海道と中山道を江戸から諏訪湖までの縦の線で結ぶ街道である。そして江戸から北に向かう主要幹線が日光街道と奥州街道である。

(1) 東海道

江戸と京都、幕府と京都御所（天皇）を結ぶ最重要街道として家康は早くも一六〇一（慶長六）年に着工命令。全ての施設が整備されたのが一六二四（寛永元）年。江戸日本橋から小田原、駿府、

浜松を経て京都三条大橋までの五十三次（宿）で496キロ。参勤交代で東海道を利用する大名は146家にのぼった。

(2) 中山道

一六〇二（慶長七）年に工事開始。東海道に次いで伝馬制を実施。施設が全て整ったのは一六九四（元禄七）年。日本橋から高崎、下諏訪、木曾路、草津までの六十七次（宿）。約508キロで参勤通交大名数は30家。

(3) 甲州街道

昔から重要な軍道で、一六一八（元和四）年に官道として整備される。諸施設の完成は一七七二（安永元）年。日本橋から内藤新宿、八王子、甲府を経て下諏訪（諏訪湖の処）で中山道に繋がる。約220キロ。参勤通交大名数は3家。

(4) 日光街道

一六〇二（慶長七）年、整備開始。一六一七（元和三）年、東照宮造営後、將軍の参詣路として重

要視される。諸施設を含め一六三六（寛永十三）年頃完成した。日本橋から千住、宇都宮を経て日光までの二十一次（宿）。約130キロで参勤通交大名数は41家。

(5) 奥州街道

一六二四（寛永元）～四四（寛永二十一）年の寛永年間に整備・改修。一六四六（正保三）年完成。日本橋から宇都宮までは日光街道と同じルート。奥州道中は宇都宮以降、白河までの二十七次（宿）。これに函館までの陸羽街道、仙台道、松前道などの脇往還が接続し、全てを含んで奥州道、奥州道中とする場合もある。参勤通交大名数は37家。

●街道網の設定―脇往還（脇街道）

脇往還は五街道に接続する地方街道で、単純に脇道、回り道といわれるもの。古くから存在する街道を五街道に接続させ地方道路網を完成。したがって主な脇往還は五街道と同じく幕府が管理し

た。とはいえ、領地藩大名が第一管理責任者。五街道ほど厳しい管理・運営ではなかったが、基本的には同じ幕府管理。脇往還は結果として諸藩の経済や文化発展に大きく寄与することになる。脇往還の道幅は通常三間5.1mとされているが、重要な脇往還は大海道並みの広さがあり一概には言えない。

主な脇往還の数を地域的に示すと。

東北地方…羽州街道 約84、関東地方47、中部地方…120、近畿地方…106、中国地方…44、四国地方…32、九州地方…63と合計496も存在。脇往還の総延長距離は、のべ5,000～6,500キロと想定され、さらに地域の小規模道を加える

と、のべ12,000～15,000キロに及ぶ道路網となる。

知名度の高い脇往還は松前道、水戸街道、羽州街道、三国街道、佐渡路、北国路、伊勢路、中国路（山陽、西国など）、長崎路などがある。そして五街道に直接繋がる主な脇往還は以下の通り。
（東海道につながる往還道）

中原街道、下田街道、本坂通（姫街道）、美濃路、佐屋街道、矢倉沢往還。

家康が一五九〇（天正十八）年の江戸入府の時、東海道は整備されてなかったため、平塚から中原街道を利用し江戸入りしたとある。その後、東海道ができ中原街道は脇往還となった。しかし、家

詠道

恐ろしや 前も後ろも皆無常

逃道頼め 弥陀の浄土に

江戸時代後期 念仏行者

徳本上人

東京・小石川・一行院

八木千暁

康は特にこの道が好きで相模方面に行くときにはいつも中原街道を使ったという。

〈中山道につながる往還道〉

川越街道、下仁田道、北国西海道、北国街道、伊那街道。

〈日光街道・奥州街道につながる往還道〉

水戸街道、日光御成道、日光例幣使街道、壬生街道、佐倉街道、日光東往還など。

●新しい道路行政の確立

家康はこのように道路を整備し、人、物、金の流通を促進、さらには合理的な情報伝達機能を持つ宿駅制度を導入した。

五街道と大きな脇往還には、一定距離ごとに宿駅（宿場）が設けられた。宿場町を構成する施設は本陣、脇本陣、旅籠、そして問屋である。本陣は、大名、幕府役人など位の高い武家、公家が宿泊する専門施設。脇本陣はそれに準ずる位の武士、公家が宿泊する処。旅籠は一般の人々の宿泊施設。

通常、宿場の中央には本陣、脇本陣、問屋場が配置され、左右に旅籠が広がる配置。

宿場運営で最も重要なのが問屋場で宿場行政の全てを取り仕切る役場みたいなもの。幕府書状の受け渡し業務、伝馬、人足の差配、為替、駅通事務、物品の継立業務などの全てを取り仕切る処である。これこそ家康が初めて造った伝馬制度を實質差配する要所であった。

（つづく）

もり せいがん
1941年東京生まれ。大学卒業後ドイツ系
商社に入社。その後、海外情報、広告・マー
ケティング調査・分析、インフォメーション
オンデマンドサービス事業に携わる。廃業
物関連調査 Mori & Associates 主催。

石上善應師を偲んで

学生時代、よく板橋の石上家に伺ったもので、大正大学の学部4年の時に梵文学の先輩佐伯真光さん、東大心理学科におられた古坂哲巖さんと北海道旅行を共にしました。父上は太平洋戦争で戦死されていましたが、石上さんの実家、小樽の天上寺で、百歳を超えられた石上皆應老僧にお目にかかりました。百歳超えは珍しい時代で、とても印象深かったのを覚えています。

昭和49年発行の『新浄土宗大辞典』編集責任者として、綿密な資料収集に努められ、私の師僧に関わる資料も多く集めて下さいました。また『在家佛教』では奈良康明師と交互に原稿を書かれていたのが記憶に新しいところです。もちろん本誌にも何度もご寄稿いただいています。名前の石上は釈尊の住まい『石上樹下』からで、今も芝にお住まいの樹下さんと二人で相談してつけられたと伺っています。

法然上人鑽仰会会長 佐藤 良純

石上先生が浄土宗総合研究所に来られたのは、先生とは旧知の間柄だった水谷幸生師が宗務総長になられ、その後任、第4代所長就任時で、平成12年4月でした。所長就任直後に「宗祖法然上人800年大遠忌」の記念事業が計画され、いくつかのプロジェクトを実施。その際、石上先生の人脈の広さが遺憾なく発揮され、宗内東西の関連研究者を研究所に招聘するなど、その高い見識と人脈を遺憾なく発揮し大活躍されました。

また、天台宗雲井昭善師、曹洞宗奈良康明師等とともに教団付置研究所懇話会を立ち上げ、仏教ばかりでなく神道、キリスト教、新宗教を含め、幅広い宗教教団の重鎮とのお付き合いが出来るようになったのも石上先生のおかげです。

先生の築かれた浄土宗総合研究所において具体的な成果を挙げるべく努力することをお誓いし追悼の言葉といたします。

浄土宗総合研究所副所長 今岡 達雄

いしがみ・ぜんのう 1929年、北海道小樽市生まれ。53年、大正大学仏教学部梵文学科卒業、56年、同大学院文学研究科仏教学修士課程修了。大正大学名誉教授、韓国東国大学校碩座教授、淑徳短期大学学長、浄土宗総合研究所所長、三康文化研究所理事。2014年瑞宝中綬章受章。16年公益財団法人仏教伝道協会より仏教伝道文化賞を受賞。著書多数。20年11月29日91歳で遷化。法号 戴蓮社頂譽善應老和尚。



謹 賀 新 年

令和三年

浄土宗総本山知恩院門跡
浄土門主

伊藤唯眞

大本山
法主 増上寺

八木季生

大本山くろ谷 金戒光明寺
法主

久米慶勝

大本山 百萬遍知恩寺
法主

福原隆善

〒606・825
京都市左京区田中門前町一〇三

大本山
清浄華院

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

柴田哲彦

鎌倉市材木座六・十七・十九
TEL 〇四六七（二二）〇六〇三

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

〒380・0851長野市元善町五〇〇

謹 賀 新 年
令和三年

浄土宗宗務総長

川 中 光 教

法然上人御誕生地
浄土宗特別寺院

美 作 誕 生 寺

〒709-3902 岡山県久米郡久米南町里方八〇八
TEL 〇八六 (七) 二八二一〇二
FAX 〇八六 (七) 二八二一六二

(学)大乗淑徳学園
理事長

長 谷 川 匡 俊

〒174-8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園
淑徳SC中等部高等部

理事長
校長 麻 生 諦 善

白本尊阿弥陀如来・
家康公念持佛

静岡 宝 台 院

住職 野上智徳

赤坂六地藏尊

浄 土 寺

住職 阿川正貫

〒107-0032 東京都港区赤坂四・三・五

鶏頭山安楽寺

飯 田 實 雄

〒399-4115 駒ヶ根市上穂栄町九・五
電話 〇二六五 (八三三) 三六八〇

清水湊

忠高山 實 相 寺

〒112-0002 東京都文京区
小石川三丁目十四番六号

無量山 傳 通 院

電話 〇三 (三二八) 二四一三七〇一 (代表)

家康公祖母菩提所

玉桂山 華 陽 院

住職 堀田卓文

勝 願 寺

〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三一
電話 〇四八 (五四二) 〇二二七

お骨仏の寺

一 心 寺

〒543-0002 大阪市天王寺区逢阪二・八・六九
電話 〇六 (六七七) 〇四四四

謹 賀 新 年
令和三年

九品阿彌陀如来

淨 眞 寺

〒158・0083 世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

宮城県仙台市

定義じようぎ如来 西方寺

岩淵

天王山 正光寺

〒115・0041 東京都北区岩淵町三十二・十一

無縁寺

回 向 院

〒130・0006 東京都墨田区両国二・八・十
電話〇三(三六三四)七七七六

投込寺 淨閑寺

戸 松 秀 明

〒116・0003 荒川区南千住二・一・一二

古今伝授の寺

天主君山 願成寺

〒411・0022 静岡県三島市川原ヶ谷十八
住職 魚尾孝久
メールマガジン ganjoji.com

塩竈市 雲上寺

東海林良昌

五劫山

愚鈍院

〒984・0001 仙台市若林区新寺三・十一・十七

寿福山 寛慶寺

水 科 善 隆

〒380・0632 長野県長野市東之門町四〇六番地
電話〇二六(二三三)一八一二

大吉寺住職

成 田 昌 憲

アジアカタミ連盟 会長
国際カタミ連盟 執行役員
公益社団法人 日本カタミ連盟 会長

〒154・0017 世田谷区世田谷四・七・九

梅窓院
住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>



「のらくろ寺」・「のらくろ和尚」
住職 飯島英徳

北海道室蘭市
満岡寺・善行寺
(0143) 22・4677・44・2695

謹 賀 新 年
令和三年

浄土宗東京教区
教区長

高橋誠実

無量寺
〒158・0097 世田谷区用賀四・二十・一

浄土宗東京教区教化団団長
浄心寺住職

佐藤雅彦

〒113・0023 文京区向丘二・一七・四

鎌倉大仏殿

高德院

〒248・0016 鎌倉市長谷四・二・二八
電話 〇四六七 (二三) 〇七〇三
FAX 〇四六七 (二三) 五〇五一

浄土宗議会議員
埼玉県佛教会副会長

蓮馨寺

住職 衆原恒久
〒350・0066 川越市連雀町七・一
電話 〇四九 (二三二) 〇〇四三
FAX 〇四九 (二三六) 〇六七六

浄土宗議会議員
学校法人森巖寺学園
社会福祉法人崇仁会

加藤昌康

東京教区 森巖寺

願行寺

佐藤久雄

〒140・0004 品川区南品川二・一・一二

光円寺住職

佐藤良純

〒112・0002 文京区小石川四・一二・八

戒法寺住職

長谷川岱潤

〒141・0021 品川区上大崎一・九・十一

編集後記

「良いことが続かないのも無常、悪いことも続かないのが無常」
令和3年は何としてもコロナ収束の年
にしたいものです。

新年号の巻頭の「鶴飼秀徳の寺々刻々」
には、コロナ禍での寺院への意識変化、
をテーマに戸松義晴全日本仏教会理事長
を迎えました。

葬儀や墓に大きな変化が起きています
が、「宅墓」という新しい埋葬(?)が
登場したようです。骨董を自宅の部屋に
置いておく簡易墓だそうで、聞いた時には
愕然としました。新時代到来は加速す
るばかりです。

今月号から、ぐんじまんさんの浄土宗

祖師方の漫画が始まります。読者も法然
上人の生涯はご存知でしょうが、二祖
三祖の生涯となると……。八祖までを企
画しています。ご期待下さい。

同じく新連載で森清鑑氏の江戸時代の
街道話が始まります。江戸はもちろん、
この国の土台を作った徳川家康の全国イ
ンフラ構想を読み解く連載です。お楽し
み下さい。そして表紙も一新、東京・乗
蓮寺若林隆壽住職に飾ってもらいます。
どこに行く時もカメラを携える師ならで
はの魅力的な写真です。さらに表紙ウラ
の古物漂流も新連載となります。

浄土宗の知の巨人とも言える石上善應
師が、転倒がもとで急逝されました。長

雑誌『浄土』 特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
加藤昌康(下北沢・森厳寺)
河本悠大(函館・称名寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤久雄(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良昌(塩釜・雲上寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
長谷川岱潤(東京・戒法寺)
藤田得三(鴻巣・勝願院)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多将敬(両国・回向院)
松清泰彦(芝・寶松院)
水科善隆(長野・寛慶寺)
(敬称略・五十音順)

ホームページ jodo.ne.jp/
メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

年、『浄土』にも多くの力添えをいただ
きました。寄稿はもちろんかつての仏像
の表紙シリーズは師の提案と聞いていま
す。当会一同、莊嚴浄土を心より祈るば
かりです。

編集長 編集部員

村田洋一
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
平井泰代子
本原亮道

浄土

八十七巻 一月号頒価六百円
年費六千円

昭和十一年五月十一日第三種郵便物認可
印刷 令和二年十二月二十日

発行 令和二年一月一日

発行人 佐藤良純

編集人 長谷川岱潤

印刷所 株式会社 映印刷

〒100-0001 東京都港区六本木四丁目四番四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 03(5718)6947
FAX 03(5718)7026
振替 00180-88-8287

「お試しセット」 申し込み書

写経、写詠歌、写仏ともA4版奉書に書かれた文字や絵を筆ペンなどでなぞり書きする仕様です。写経は写し終わったあと、経本にもなります。

写仏シリーズは、浄土宗僧侶でもあり仏師の京都在住、前田昌宏師に特別依頼、美しい姿をお写しできます。時節柄、新型コロナウイルス感染防止を祈念しながら写仏してはいかがでしょうか。



申し込み日 令和 年 月 日

お名前 浄土宗寺院 _____ 寺・院 _____ 教区 _____ 組 寺院番号 _____

個人 _____

電話番号 _____ ※携帯電話でも結構です

ご住所 〒 _____

【特別セットの申し込みはこちら】

「お試しセット」特価 1,800円を _____ セット申し込みます

※特価につき、3セットまで、そして令和3年3月末日までとなります。

【通常セットの申し込みはこちら】 ※通常セットが新価格となりました。

写 仏 _____ セット (1セット6枚5組 頒価 5,000円)

写 経 _____ セット (1セット12枚5組 頒価 6,000円)

写詠歌 _____ セット (1セット5枚5組 頒価 3,000円)

※送料と消費税は頒価に含みます。※お届けまでに最長2週間かかります。

お申し込みは本ページをコピーご記入の上 FAX、またはメールにてお願い致します。

お支払いは同封の請求書でお振り込み下さい。

法然上人鑽仰会

FAX 03-3578-7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

お問い合わせは 電話 03-3578-6947

写経・写詠歌・写仏 お試しセットの 特別販売

法然上人鑽仰会
からの
お知らせ

お試しセット
1セット 1,800円

【写 経】

1組 (12枚)

「日常勤行式」

香燭から送仏偈まで

【写詠歌】

1組 (5枚)

「法然上人の和歌5首」

月かげと四季のご詠歌

【写 仏】

1組 (6枚)

「阿弥陀三尊」

「薬師如来」

「法然上人」

ほか

コロナ禍だからこそ、心を落ち着かせられる写経、写詠歌、写仏のご案内です。今回は通常セットの他に、ご住職ご寺族にお試しいただくためのお試しセットを作りました。この機会（2021年3月末日まで）にぜひ一度お試し下さい。



写仏は仏師
前田昌宏師
のオリジナル！

特価で
お届けします！

お試しセットは、
写経、写詠歌、写仏の3種類を
各1組ずつをセットにしたものです。

《お申し込みは裏面へ》